

一般社団法人日本鉱物科学会 2024年度 定時総会 資料 決算及び事業報告

日時：2025年9月11日（木）9：00～10：15

場所：山口大学 吉田キャンパス 共通教育棟 1番教室
(〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1)

議長選出：() 会員

開会宣言：

定足数の確認：859名×10分の1以上=86人以上 () 名

当日(ZOOM参加含) () 人 (ZOOM 人) + 委任状() 人 + 書面議決書() 人

物故会員への黙祷：小倉 義雄 永年会員，阿部 宏 永年会員，阿部 利弥 シニア会員

会長挨拶

目的事項

報告事項

- I. 2024年度（一般社団法人第9期）事業報告
(和文誌，英文誌編集，行事，広報，庶務，Elements，会員，会長)
- II. 2025年度（一般社団法人第10期）事業計画書及び収支予算などの件
- III. その他

決議事項

- I. 第1号議案 2024年度（一般社団法人第9期）事業報告承認，決算承認の件

資料: 2024年度定時総会資料 決算及び事業報告

1. 2025年度収支予算
2. 2024年度決算報告
 - 1) 貸借対照表
 - 2) 正味財産増減計算書
 - 3) 財務諸表に対する注記
 - 4) 附属明細書
- 3) 監査報告書

閉会宣言

授賞式

- 一、日本鉱物科学会賞授与
- 一、渡邊萬次郎賞授与
- 一、日本鉱物科学会論文賞授与
- 一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与
- 一、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与
- 一、櫻井賞授与
- 一、JMPS学生論文賞授与

井上 徹 会長 挨拶

一言ご挨拶申し上げます。

恒例により、一般社団法人日本鉱物科学会が定款に定める事業の概要を確認します。

本会は、目的として定款第3条に「鉱物科学及びこれに関連する諸分野の学問の進歩と普及をはかること」を定め、それを達成するため、第4条で次の事業を行うと記しています。

- (1) 和文誌（岩石鉱物科学）、英文誌（Journal of Mineralogical and Petrological Sciences）、その他の冊子版、電子版による発行
- (2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催
- (3) 研究の奨励及び業績の表彰
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

2024年度は一般社団法人日本鉱物科学会として第9期になります。

私が会長を拝命して1年、また新たな事務局による運営体制に移行してから2年が経過しました。まずは、前会長であり今回の年会実行委員長でもある大和田先生に、2年前の新運営体制構築に多大なご尽力をいただいたことに、心より感謝申し上げます。おかげさまで、新事務局職員の小宮山印刷・猪狩さんをはじめ、各幹事、委員長、そして理事の皆さまの献身的なご貢献のもと、新体制も軌道に乗ってきたと感じております。

もっとも、まだ会員の皆さまにはご不便やご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、皆さまからいただくご意見を反映しつつ、より良い学会運営に努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、近年は多くの学会で会員数の減少が話題となっていますが、日本鉱物科学会では2022年から会員数が増加に転じ、特に若い世代の入会が顕著です。昨年度の名古屋大学での年会でも、ポスター会場や懇親会会場でその活気を肌で感じ、大変嬉しく思いました。日本鉱物科学会には大きな可能性があるかと実感しています。

本年の年会の全投稿数は230件で、昨年度（240件）とほぼ同数でした。（ちなみに一昨年の大阪開催は182件でした。）一般的に、地方都市開催では投稿数や参加者数が大都市開催に比べて減少しがちですが、今年の年会はそのハンディを跳ね返す勢いです。活発な人的交流によって、日本鉱物科学会がさらに盛り上がることを期待しています。

年会の開催は、現地LOC（Local Organizing Committee）および行事委員の多大なご尽力、言い換えればご負担のうえに成り立っています。今年の年会は、LOCの負担軽減を考慮し、ハイブリッド形式での開催は見送りました。一方で、ある会員の方から「オンラインによる口頭発表と質疑応答の継続に役立ててほしい」との大型寄付をいただきました。来年度以降は、LOCの負担を軽減できる体制を整え、ハイブリッド形式での開催を努力目標としてまいります。

また、会計幹事のご尽力により、財政の健全化も着実に進んでいます。今後財政に余裕が出てきた暁には、真っ先に若手育成に向けた新たな取り組みを行っていきたいと考えています。学会活動の将来を担う人材育成のため、引き続き皆さまからのご寄付、ご支援をお願い申し上げます。

さらに広報委員会の活動も活発で、学会ホームページの充実やSNSによる情報発信も行っています。「ヒスイ」が日本の国石であることは広く知られるようになり、マスコミに取り上げられる機会も増えています。このような状況を踏まえ、2016年9月の国石選定の際に惜しくも選ばれなかった4つの石（花崗岩、輝安鉱、自然金、水晶）を、日本の準国石として選定することを、2025年5月の理事会で決定しました。今後はこれら準国石の普及にも努め、鉱物科学の魅力を広く発信していきたいと考えています。

引き続き会員の皆様の積極的な参加をお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

以下の個別の事業状況については、各担当幹事・委員長より報告いたします。

報告事項

I. 2024年度事業報告（一般社団法人第9期 2024年8月1日～2025年7月31日）

(1) 和文誌(岩石鉱物科学)、英文誌(Journal of Mineralogical and Petrological Sciences)、その他の発行事業

[1] 和文誌(岩石鉱物科学)編集報告（興野和文誌編集幹事・委員長）

1. 2024年9月13日 第1回定例理事会 和文誌編集報告

興野幹事より、2024年9月2日に岩石鉱物科学(GKK)編集委員会がzoomでオンライン開催され、英語の論文の受諾可否、GKKとJMPSにおける引用論文の体裁の不一致、GKKにおける鉱物名の表記方法について検討されていることが報告された。特に鉱物名の表記方法については、中高の教科書における表記法とのミスマッチが生じている点が問題視され、GKKと教育委員会との間でワーキンググループを作り検討されていく方針あることが報告された。また、2025年1月1日から施行予定の生成AIを使用した著作物の著作権に関する法規の一部改訂について、学術著作協会による説明会が行われる予定であり、説明会に興野会員が出席予定であることが報告された。

2. 2024年11月19日 第1回臨時理事会 和文誌編集報告

興野和文誌幹事より、2024年度第1回定例理事会(2024年9月13日)以降、2024年11月7日現在までの状況が議事資料に沿って報告された。

1) 編集状況報告(2024年9月2日~2024年11月7日現在まで)

(1) 発行状況: 53巻1号電子ジャーナル3編公開(以下、発行順)

- ・原著論文「長崎県雲仙地獄における熱水変質帯の分布と温泉水による酸性変質作用」坂本 光瑠, 宮本 知治, 石橋 純一郎, 松島 健, 森 啓悟
- ・日本鉱物科学会研究奨励賞第34回受賞者受賞記念研究紹介「地球外試料から探る宇宙風化に伴う固体物質の変化」松本 徹
- ・原著論文「八方尾根周辺のかんらん岩における接触変成直方輝石の生成: 礫からのアプローチ」荒井 章司, 江島 輝美, 高橋 康, 太田 勝一, 輪湖 恵美, 石丸 聡子

(2) 現在受理論文: 1編(総説[講義シリーズ])初校校正中

(3) 現在査読中論文: 2編(総説[講義シリーズ], 原著論文)

2) 管理委託契約約款の改定に係る説明会(興野会員が参加)

著作権の利用形態について:

現在著作権の利用形態には以下の4つがある。1) アナログ複写複製…紙媒体のコピー, 2) デジタル複写複製…電子ファイルのコピー, 3) 転写複製…引用の範囲を超えての既存の出版物の図表掲載, 4) AI利用…AIにデータベース等を学習させ生成された要約等。今回、現行の著作権法に「4のAI利用」が追加された。

権利委託手続きについて:

日本鉱物科学会は、学術著作権協会と管理委託契約を締結している。著作権管理委託申込書の更新が必要である(著作権法に「4のAI利用」が追加されたため)。既に管理委託著作物リスト(JMPS, GKK)が事務局に送付され、会長により承認後、返送が済んでいる状態ある。

3) 依頼原稿カテゴリー班の進捗状況報告

順調に各班で進められているとの報告がなされた。

4) 英語論文の取り扱い

「岩石鉱物科学」投稿規定に「依頼原稿に限り、母国語が日本語でない著者については、英語での投稿を認める」の一文を加えることとなった。

5) 引用文献のGKKの体裁

引用文献の体裁をJMPSに合わせることとなった。またこの改訂を「岩石鉱物科学」投稿規定に反映させることとなった。

6) 鉱物・岩石名表記法のルール化

GKKには岩石鉱物の表記のルールがないことが問題となっており、少なくともGKKの投稿規定には表記法に関するルールはあった方がよいとの方針から、どのようにルール化するかについて継続審議となっている。

7) 岩石鉱物科学の英語名称

鉱物科学会のHPの岩石鉱物科学の英語名がGKKとなっているが、英語名はGKKではない。正式名は、「Japanese Magazine of Mineralogical and Petrological Sciences」(J-Stageが使用しているGKKの英語名) 鉱物科学会のHPの岩石鉱物科学の英語名は「Japanese Magazine of Mineralogical and Petrological Sciences; Ganseki Koubutsu Kagaku (GKK)」と二つ表記する。

8) AIによる専門用語の翻訳

現状、翻訳AIが専門用語を翻訳できないという問題があるが、日本語の専門用語(特に鉱物名)にカッコで英語を付してはどうかという意見が上がっている。この件に関して、井上会長より「DeepLには、日本語の専門用語が入っていないのか」との質問があった。興野和文誌幹事は「web上にある専門用語に紐づけされておらず、間違った訳・鉱物名が訳されることがある。」と返答した。本件については継続審議となっている。

3. 2025年5月15日 第2回定例理事会 和文誌編集報告

興野和文誌編集幹事より、2024年11月19日~2025年5月15日までの編集状況について議事資料に基づき報告がなされた。

1) 編集・発行状況

53巻1号電子ジャーナル1編公開(総説 講義シリーズ)

54巻1号電子ジャーナル7編公開(研究奨励賞第35回受賞者受賞記念研究紹介, 日本鉱物科学会賞第30回受賞者受賞記念研究紹介, 日本鉱物科学会研究奨励賞第36回受賞者受賞記念研究紹介, 原著論文1編, 解説・資料2編, 「日本新産鉱物情報(2024年)」)

現在受理論文1編, 査読中論文4編(総説[講義シリーズ], 原著論文2編, 若手研究紹介)

2) 鉱物名の表記について

現在、鉱物の正式な和名は決定されておらず、決定する機関もないことが問題提起された。もともと理科の教科書で表記が統一されていないという問題があり、GKKとしての方針も決まっていなかったことから、まずはGKKの方針を決定した。近日中に鉱物の和名表記ルールを投稿規定に追記予定である。また鉱物の正式な和名をどのように決定するかについて議論された結果、新鉱物国内委員会のメンバーに、理事会のメンバーを数名加えたWGを立ち上げることが承認され、今後の方針を議論していくこととなった。

4. 2025年8月21日 第3回定例理事会 和文誌編集報告

- ・興野和文誌編集幹事より、2025年5月15日~2025年8月19日までの編集状況について議事資料に基づき報告がなされた。

1) 発行状況

54巻1号電子ジャーナル3編公開 (以下、発行順)

- ・博物館紹介「北海道大学総合博物館の岩石鉱物標本と最近の動向」 北野 一平
- ・原著論文「京都府京丹後市河辺白石山産モナズ石の化学組成とCHIME年代」 坂野 靖行, 山田 滋夫
- ・博士課程学生・若手研究紹介「「分類」から「連続性」の理解へ：機械学習と粉末X線回折が拓く岩石学の新展開」 松野 哲士現在受理論文：1編（博物館紹介）初校校正中

2) 現在査読中論文：現在査読中論文：2編（総説 [講義シリーズ], 原著論文）

・7月28日の第6回の編集委員会：

鉱物名の表記は、以下の方針に従うことを推奨する。本文中では、初出時に和名と英語名を併記する。以降は英語名の使用を避け、和名を用いる。広く使用されている和名が存在する場合は、原則として漢字表記を用いる。漢字が読みづらいと判断される場合は、ひらがなでの表記も可とする。和名が存在していても広く使用されていない場合、または漢字表記がない場合、あるいは和名が存在しない場合は、名前の由来になった原語の発音に近い片仮名表記を用いることを基本とする。なお、通称や別称の使用は避ける。また、本文中では鉱物名の表記を統一し、異なる表記の混在は避ける。

例：○石英(quartz) ○せきえい ○クォーツ ×セキエイ ×水晶
○橄欖石(olivine) ○かんらん石 ○オリビン ×カンラン石 ×ベリドット
○霏石(aragonite) ○あられ石 ○アラゴナイト ×アラレ石
○ジルコン(zircon) ○風信子石 ○ひやしんす石 ×ヒヤシンス石
○バテライト(vaterite) ○ヴァテライト ○ファーテライト ○ファートル石
○モナズ石(monazite) ○モナザイト ×もなず石
○アンモニウム明礬石(ammonioalunite) ○アンモニウムみょうばん石 ○アンモニオアルナイト
×あんもにうみょうばん石 ×アンモニウムミョウバン石

【2】英文誌(JMPS)編集報告(M. Satish-Kumar英文誌幹事・理事)

1. 2024年11月19日 第1回臨時理事会 英文誌編集報告

Satish-Kumar英文誌幹事より、2024年8月24日第3回定例理事会報告以降の投稿、編集及び発行状況が議事資料に沿って報告された。

・2024年投稿件数 42件

編集状況：早期公開準備・印刷準備中；3件、査読中：8件、返却中：13件

発行状況：

・119巻1号電子ジャーナル

原著論文22編 Letter3編 計242頁

・119巻ANTARCTICA号電子ジャーナル

原著論文2編 計23頁

・119巻1号(2024年) 2024年8月24日以降の電子ジャーナル公開状況は、8件

・2023 JMPS Impact Factor: 0.9

(2022⇒0.7, 2021⇒1.041, 2020⇒0.72, 2019⇒0.764, 2018⇒1.472, 2017⇒1.030, 2016⇒0.409, 2015⇒0.648, 2014⇒0.742, 2013⇒0.656, 2012⇒0.589)

2. 2025年5月15日 第2回定例理事会 英文誌編集報告

Satish-Kumar英文誌編集幹事より、2024年11月19日第1回臨時理事会報告以降のJMPS誌の状況およびCreative Commons (CC)のフォーマットに関して報告された。

1. JMPS現状報告

1) 投稿数状況:現在まではほぼ例年どおりの投稿数で推移している。特集号の企画について良い案があれば提案していただきたい。

2) 編集状況: 早期公開準備・印刷準備中：1件、査読中：14件 返却中：7件

3) 発行状況:

・119巻1号電子ジャーナル, 原著論文25編 Letter 3編 Errata 1編 計283頁

・119巻ANTARCTICA号電子ジャーナル, 原著論文2編 計23頁

・120巻1号電子ジャーナル, 原著論文 9編 Review 1編 Letter 2編 計123頁

2. CCのコピーライトフォーマットの修正

3月の編集委員会にてCCについて、コピーライトのフォーマットが修正されたものが提案され承認された。6月の論文からロゴ付きで掲載される。

3. 2025年8月21日 第3回定例理事会 英文誌編集報告

54巻1号	件数	頁
原著論文	1件	10p
短報	0件	0p
総説	0件	0p
解説・資料	2件	20p
受賞記念研究紹介	3件	23p
鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ	0件	0p
最近の研究から	0件	0p
日本新産鉱物情報	1件	4p
博物館紹介	0件	0p
フィールド紹介	0件	0p
博士課程学生・若手研究紹介	0件	0p
訂正	0件	0p
	合計頁	57頁

Satish-Kumar英文誌編集幹事より、2025年5月15日第2回定例理事会以降の投稿、編集及び発行状況が議事資料に沿って報告

1. JMPS現状報告

1) 投稿数状況：[参考：表1]

[表1] WEBシステム利用後の投稿数(2025年8月19日現在)

Month	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
Jan	0	3	2	2	5	2	4	7	5	5	1	1	7	5	0
Feb	0	2	2	1	2	2	0	2	1	0	0	1	4	5	3
Mar	0	2	0	4	2	2	7	3	1	1	5	5	6	3	6
Apr	0	2	3	1	5	3	12	5	5	3	1	1	5	4	4
May	0	4	0	3	5	4	3	4	3	1	0	2	1	5	2
Jun	0	12	6	9	4	3	5	2	3	2	0	3	4	3	3
Jul	0	3	3	8	9	12	9	6	6	5	2	3	3	4	3
Aug	0	5	2	1	7	1	2	2	12	3	5	2	3	1	3
Sep	3	2	1	4	5	2	2	4	2	3	4	5	2	6	0
Oct	16	14	11	16	9	3	4	3	10	2	0	3	4	6	0
Nov	2	5	4	4	5	8	9	18	5	8	2	6	2	4	0
Dec	3	3	2	6	5	2	4	2	5	2	6	13	7	4	0
	24	57	36	59	63	44	61	58	58	35	26	45	48	50	24

2) 編集状況：早期公開準備・印刷準備中：1件

査読中：10件 返却中：7件

3) 発行状況：

・120巻1号電子ジャーナル

原著論文 17編 Review 1編 Letter 3編 計254頁

論文種類	件	Vol 120	件	Vol 119	件	Vol 118	件	Vol 117	件	Vol 116	件	Vol 115	件	Vol 114	件	Vol 113	件	Vol 112	件	Vol 111
Reviews	1	14 p	0	0 p	2	24 p	0	0 p	0	0 p	5	60 p		0 p			7	75 p	1	3p
Articles	17	224 p	27	290 p	37	563 p	10	123 p	23	265 p	33	406 p	23	242 p	24	255 p	21	221p	30	396 p
Letters	3	16 p	3	15 p	4	24 p	4	23 p	8	43 p	2	12 p	9	48 p	9	49 p	12	60p	4	22p
Technical	0		0		0		1	10 p	1	5 p	1	5 p	1	11 p	1	11 p				
Editorial	0		0		0		1	1 p		1p		1 p		2 p				1 p		1 p
Errata	0		1	1 p	0		0					1 p								1p
規程	0		0		0		0			3p		3 p		6 p		4 p		6 p		4 p
Index	0		0		0		0			4p		4 p		4 p		5 p		4 p		5 p
Contents	0		0		0					4p		5 p		4 p		5 p		4 p		6 p
白頁	0		0		0					2p		3 p		1 p		3 p		1 p		2 p
合計頁	21件	254 p	31件	306 p	43件	611 p	16件	157 p		327 p		500 p		318 p		332 p		372 p		440 p
1号 平均頁										54.5p		83.3 p		53 p		55.3 p		62 p		73.3p

4) 120巻1号(2025年) 2025年5月15日以降の電子ジャーナル公開状況

・120巻1号

掲載 番号	公開日	論文種類 タイトル—著者名
001	May 15, 2025	Temporal evolution of magmatic processes in a subvolcanic plumbing system in a continental region: constraints from geochemistry of the late Neoproterozoic Wadi Dib alkaline ring complex in the Eastern Desert, Egypt Eman SAAD, Kazuhito OZAWA, Takeshi KURITANI, Ali A. KHUDEIR

002	June 16, 2025	Onboard measurements of the seismic velocity and electrical resistivity of dredged samples from the Southern Mariana region collected during cruise KH-23-9 Tomohiro ITO, Ikuo KATAYAMA, Yuya AKAMATSU, Kazuki MATSUYAMA, Masakazu FUJII, Yumiko HARIGANE, Yasuhiko OHARA
003	June 18, 2025	Zircon U-Pb dates from Lower Miocene rhyolitic welded tuffs in the Hokuriku region, central Japan: Implications for silicic volcanism prior to the opening of the Sea of Japan Raiki YAMADA, Mitsuhiro NAGATA, Sota NIKI, Takafumi HIRATA
004	June 25, 2025	Pressure-induced elongation of hydrogen-oxygen bond in sodium silicate melts Tomonori OHASHI, Tatsuya SAKAMAKI, Ken-ichi FUNAKOSHI, Gerd STEINLE-NEUMANN, Takanori HATTORI, Liang YUAN, Akio SUZUKI
005	July 09, 2025	The electron backscatter diffraction (EBSD) analysis procedure for crystal preferred orientations to reduce loss of EBSD map data: An example of antigorite Takayoshi NAGAYA, Simon R. WALLIS
006	July 22, 2025	Formation processes of fibrolitic sillimanite seams and sillimanite inclusion-rich quartz by fluid-rock interaction (Wazuka-Kasagi area, Ryoke Belt, SW Japan) Tetsuo KAWAKAMI, Saori AMANO
007	July 29, 2025	The crystal chemistry of pumpellyite from Sugashima and juldolomite from Kouragahana, Japan: Toward a comprehensive understanding of the crystal chemistry of pumpellyite-group minerals Mariko NAGASHIMA, Daisuke NISHIO-HAMANE
008	August 06, 2025	Adsorption characteristics of Cs ⁺ and IO ₃ ⁻ by organic-rich weathered volcanic ash deposit containing imogolite in southern Kyushu, Japan before and after H ₂ O ₂ and DCB treatments Motoharu KAWANO, Kazuaki NANAMURA
009	August 07, 2025	Amaterasuite, Sr ₄ Ti ₆ Si ₄ O ₂₃ (OH)Cl, a new mineral from jadeitite, a representative stone of Japan Daisuke NISHIO-HAMANE, Mariko NAGASHIMA, Yuki MORI, Masayuki OHNISHI, Norimasa SHIMOBAYASHI, Takashi MATSUMOTO, Mitsuo TANABE

5) 2024 JMPS Impact Factor: 1.0

(2023⇒0.9, 2022⇒0.7, 2021⇒1.041, 2020⇒0.72, 2019⇒0.764, 2018⇒1.472, 2017⇒1.030, 2016⇒0.409, 2015⇒0.648, 2014⇒0.742, 2013⇒0.656, 2012⇒0.589)

(2) 総会, 講演会, 研究部会, その他学術に関する集会及び行事の開催事業

以下, 各幹事等からの報告は, 学会webページ掲載の理事会議事録を参照のこと。

【1】行事報告・年会報告(瀬戸行事幹事・理事)

1. 第1回定例理事会 (2024年9月13日)

永嶌 2025 年 LOC 委員より, 2025 年の年会について, 9 月 10 日(水)~12 日(金)の日程で開催する方向で準備を進めており, 開催場所や各種助成金の申請状況についての報告があった。この方針で 2025 年年会の準備を進めていくことで異議なく承認された。

瀬戸行事幹事より, 2026 年年会開催地について東京大学で開催する方向であること, また LOC 委員会として, 鍵裕之(委員長, 理事), 小松 一生(行事委員会委員, 庶務副幹事), 橘 省吾, ウォリス サイモン, 三河内 岳 (理事), 鈴木 庸平, 瀧川 晶, 奥村 大河の各委員で進めていただく方針が説明され, 意義なく承認された。引き続いて鍵 2026 年 LOC 委員長よりあいさつがあった。

2. 第1回臨時理事会 (2024年11月19日)

片山理事(前行事幹事)より, 名古屋大会の決算報告が提示され, 概要について説明がなされた。審議の結果, 異議無く承認された。名古屋大会は参加者が 337 名であり, 昨年の 257 名から大きく増えたこと, 参加費・懇親会費・助成金・広告費が増えた結果, 収入が大幅に増えたことの報告もなされた。

3. 第2回定例理事会 (2025年5月15日)

瀬戸行事幹事より, 2025年度年会(山口大学)の準備状況について報告があった。

- ・会期は 2025 年 9 月 10 日~12 日, 定時総会は 2 日目(11 日)に開催予定。
- ・研究発表は対面形式で実施。予算・人員面の制約により, 全体のハイブリッド開催は行わないが, 定時総会と授賞講演はハイブリッドで実施予定。
- ・セッション構成は例年通りで, S1 セッションは火山学会との共催を予定。
- ・参加登録料は前年と同額。非会員の招待講演者は参加登録料を無料とする予定(ガイドライン改正を前提とした措置)。

- ・企業展示の募集を開始済。現地での出展 1 件、広告出稿 1 件あり。関係者に企業への声かけを依頼。
- ・託児所の設置を予定しており、学会からの予算的支援について今後審議予定。
- ・一般公開講演や巡検の実施予定はなし。YMO 企画、企業と学生の交流会は未定または実施しない方針。
- ・講演申込は 6 月 13 日～7 月 4 日（5 日程度の延長予定）。7 月中旬にセッションごとの発表日時を先行公開予定。
- ・8 月上旬にプログラム公開と参加登録開始。9 月上旬に事前割引を終了、以降も通常料金で登録可能。

2026 年年会(東京大学)日程、運営委員長ならびに委員について

- ・瀬戸行事幹事より、2026 年年会を以下の日程・体制で開催することが提案され承認された。
- ・日程：2026 年 9 月 24 日（木）～9 月 26 日（土）
※この日程は火山学会と完全に重複しているが、大学院入試や停電の影響等により変更は困難との説明があった。
- ・現地運営委員会：委員長：鍵 裕之 副委員長：橘 省吾（今回新たに審議）
委 員：小松 一生、鈴木 庸平、瀧川 晶、三河内 岳、ウォリス サイモン、
浜根 大輔（前回理事会以降に追加）、奥村 大河
- ・年会開催のガイドライン 11 項の改正
瀬戸行事幹事より、年会において多様な講演者を招待しやすくするため、参加登録料の無償化を実施できるようにすること、および年会ガイドラインの 11 項において「招待講演者の旅費や参加登録料の支援はないことに留意すること。」という文面を削除することが提案された。また、各年会の予算状況によっては無償化をとりやめる可能性についても言及され、年会ごとに柔軟に対応してほしいとの説明があった。審議の上、上記のとおりガイドラインを改正することで承認された。

【2】広報報告(齊藤広報幹事・委員長)

- 1) 会員へのメールニュース送信
事務局猪狩さんから会員向けにメールニュースを送信いただいた。
- 2) 学会HPと公式SNS (Facebook, X), YouTubeを通した広報活動。
 - ・ホームページに「お知らせ」として、掲載依頼のあった鉱物科学関連情報のほか、公募情報、関連学会情報、新刊紹介などを掲載した。(2025年8月からは掲載作業については一部を除き事務局が担当)
 - ・公式SNSの運用については、フォロワー層の傾向を踏まえ、X (旧Twitter) では一般の方が多く含まれることから、一般向けの周知に適した内容に限定して発信を行っている。一方、会員関係者の利用が多いFacebookにおいては、上記の一般的な内容に加え、学会HPで周知している事務連絡や公募情報等も掲載している。また、会員関係者から周知依頼のあった情報についても発信を行った。
 - ・YouTubeチャンネルで、これまでの動画配信に加え、新動画（鉱物さんぽ国立科学博物館編）を配信した。
- 3) 年会（名古屋大会）でのクイズ企画の開催
大会LOCからの依頼があり、「激ムズ鉱物クイズ(presented by 広報委員会)」と題したクイズ企画を開催（JpGU2024での鉱物科学会ブースのクイズラリー問題を難しくしたもの）。山口大会でも行事委員会からの依頼によりクイズ企画を開催予定。
- 4) 地学オリンピック「地球にわくわく未来ガイド」への広告掲載
地学オリンピック参加者へ配布する冊子「地球にわくわく未来ガイド」に日本鉱物科学会の紹介広告（A4・1 ページ）を掲載した。
- 5) 文部科学省の科学技術週間ウェブサイトへの掲載
科学技術週間（令和7年4月14日～20日）に合わせて、学会紹介特別サイトを作成し、紹介広告・動画等を掲載した。
- 6) JpGU2025における現地ブース展示
日本地球惑星科学連合2025年大会JpGU2025（幕張）において、昨年に続き現地ブース展示を行った。クイズラリーに参加し、景品としてヒスイ輝石岩とスピネルを提供した。
- 7) その他
 - ・テレビ局/映像制作会社等からの問い合わせへの対応（3 件）
 - ・中学生会員からの質問等への対応（複数回）

【3】Elements報告（井上会長）

1. 第1回臨時理事会（2024年11月19日）

井上会長より、Elements に関する報告があった。

- ・Elements の発行に関しては、順調に進んでいる。
- ・2023 年に通常の 6 号に加えて 3 号追加し（合計 9 号）、これまでの発行の遅れを取り戻した。2024 年は予定通り 6 号が発行され、通常に戻っている。
- ・返答の締切が 2024 年 12 月 15 日とする下記の依頼があった。1) 3) は承認、2) は JAMS からの推薦は無と返答する。

1) 2025 予算の承認依頼：

2025 年の Elements の通常予算に加えて、Goldschmidt 会議（プラハ）で Elements の 20 周年を祝うためのレセプションとギャラリー展示を 1 回行うことが提案されている。チケット販売やスポンサーシップによる収入で賄えない費用は、Elements の投資資金から支出される。各学会は、学生用チケットの助成金として寄付を行うこともできる。寄付の目安は 1000 ドル。

2) Mineralogy の主幹編集者(2026-2028)の推薦依頼

- 3) 米国地質学会 (GSA) の鉱物学・地球化学・岩石学・火山学 (MGPV) 部門の「Elements 関連組織申請」承認: Elements 関連組織とは Elements 参加学会とは異なり, Elements の購読料を支払わないため Elements を受け取ることはできないが, 1 ページあたり 800 ドル (2025 年) のページ料金で Elements の「学会ニュース」コーナーに記事を掲載することができる. GSA-MGPV は厳密には学会の「部門」だが, 会員数は多く (約 1500 人), Elements 関連組織としての参加は GSA 評議会により承認されている. Elements には現在, 他に 3 つの関連組織 (IMA, EMU, AIPEA) がある.

(3) 研究の奨励及び業績の表彰 (安東庶務幹事・理事)

【1】 2024年度日本鉱物科学会賞表彰

第 31 回受賞者: 富岡 尚敬 会員 (海洋研究開発機構高知コア研究所)

業績題目「高温高压下における惑星物質の相転移と変形の挙動解明」

第32回受賞者: 宇都宮 聡 会員 (九州大学大学院理学研究院化学部門)

業績題目「福島第一原発事故で放出された高濃度放射性セシウム含有微粒子に関する先導的研究」

【2】 渡邊萬次郎賞表彰

第41回受賞者: 周藤 賢治 会員

【3】 2024年度日本鉱物科学会論文賞表彰

第28回受賞論文

Title: Water contents and pressures of melts in unerupted felsic magma constrained by SEM-EDS analysis of homogenized melt inclusions in zircon. 2024 年 119 巻 1 号 論文 ID: 230904

Authors: Taichi KAWASHIMA, Kazuya SHIMOOKA, Toko FUKUI, Satoshi SAITO

受賞者: 川島 泰地 会員, 下岡 和也 会員, 福井 堂子 会員, 齊藤 哲 会員

第29回受賞論文

Title: Carbon isotopic composition of graphite in metamorphic rocks from Lützow-Holm Complex, East Antarctica: Implications for carbon geodynamic cycle in continental crust. 2023 年 118 巻 ANTARCTICA 号 論文 ID: 230401

Authors: M. SATISH-KUMAR

受賞者: M. SATISH-KUMAR 会員

【4】 2024年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

第 37 回受賞者: 大柳 良介 会員 (国士舘大学理工学部理工学科)

研究対象: 沈み込み帯や海洋底における岩石-水相互作用プロセスの解読

第 38 回受賞者: 則竹 史哉 会員 (山梨大学大学院総合研究部)

研究対象: 原子モデルに基づくけい酸塩溶融体の粘性支配因子の解明

【5】 2024年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰

第17回受賞者: 瀬戸 雄介 会員 (大阪公立大学大学院理学研究科)

業績題目: 鉱物学・結晶学を基盤としたソフトウェア開発と鉱物科学への貢献

【6】 櫻井賞表彰

第47回受賞者: 田中 崇裕 会員 (日鉄鉱コンサルタント株式会社)

対象鉱物: 三千年鉱

【7】 2024年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

第18回受賞論文: Water contents and pressures of melts in unerupted felsic magma constrained by SEM-EDS analysis of homogenized melt inclusions in zircon. 2024 年 119 巻 1 号 論文ID: 230904

Authors: Taichi KAWASHIMA, Kazuya SHIMOOKA, Toko FUKUI, Satoshi SAITO

受賞者: 川島 泰地 会員 (投稿時: 愛媛大学・修1在学)

【8】 2024年年会研究発表優秀賞表彰

第70回受賞者: 松野 哲士 (東北大学)

R7-11: 粉末X線回折による全岩鉱物量比・累帯構造量比の数値化: ビッグデータ時代に向けて

第71回受賞者: 箕輪 桃子 (東京学芸大学)

R8-01: 「コーサイト相転移石英のEBSD検出法」の確立に向けて—西南日本四国三波川変成帯権現地域の組み込み—

第72回受賞者: 戸田 賢太郎 (東北大学)

S2-09: 海底熱水系の硫化物チムニー発達プロセスおよび発電特性解明に向けた実験的研究

第73回受賞者: 吉元 史 (京都大学)

R2-04: フッ素アパタイト中の水素拡散における研磨状態の影響評価と拡散メカニズムの推定

第74回受賞者: 榎本 華子 (東京大学)

R5-01: 非晶質ケイ酸塩の凝縮実験と分光分析から制約されるAGB星周ダストの化学組成の多様性

第75回受賞者：星田 昌慶（東北大学）

S2-07：葛根田花崗岩の坑井試料を用いた熱源花崗岩および超臨界地熱貯留層内の長石の溶解再沈殿―再平衡プロセス

（４）本会の目的を達成するために必要な事業

【1】庶務報告（安東庶務幹事・理事）

- 1) 2024年度幹事会，理事会開催，準備，調整，監査立ち合い
（日時調整，議題作成，議事録作成，総会招集通知資料作成，発送，総会議事録作成，理事会会場準備，ZOOM会議準備）
第1回定例理事会ハイブリッド開催：2024年9月6日（金）17：15～18：15，名古屋大学学東山キャンパス ES総合館 ES024
会場
第1回臨時理事会ZOOM開催：2024年11月5日（火）16：20～18：15，広島大学理学部 井上研究室
第2回定例理事会ZOOM開催：2025年5月 1日（木）10：00～12：10，広島大学理学部 井上研究室
第3回定例理事会ZOOM開催：2025年8月21日（木）16：00～18：10，広島大学理学部 井上研究室
一般社団法人日本鉱物科学会監査立ち合い：2025年8月21日（木）10：00～11：00 ZOOM開催
2024年度定時総会ハイブリッド開催：2025年9月11日（木）9：00～10：15，山口大学 吉田キャンパス 共通教育棟1番教室
- 2) 後援，共催，協賛の承諾
- 3) 会員への連絡
- 4) 表彰に関する件：日本学術振興会賞，令和8年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の学会内推薦について周知した。
- 5) 一般社団法人定時社員総会「招集通知」の電磁的方法（メール等）採用への同意お願い
- 6) 一般社団法人日本鉱物科学会2024年度定時総会（2025/9/11開催）の事前お知らせ
- 7) 理事会，総会の開催準備 召集，資料作成，議事録作成
- 8) 事務局管理：学会事務局業務を委託している小宮山印刷工業（株）仙台営業所との間で逐次連絡を取り，対応を進めている。GKKおよびJMPS編集業務，会員管理システム運用を含め，円滑に遂行している。
- 9) 2024年度 役員 各委員会委員報告

＜理事(22名)，監事（1名）＞

会長(代表理事)：井上 徹，副会長(代表理事)：中村 美千彦

理事：秋澤 紀克，安東 淳一，大藤 弘明，鍵 裕之，片山 郁夫，河上 哲生，栗林 貴弘，黒沢 正紀，佐久間 博，
瀬戸 雄介，DAS Kaushik (ダス カウシク)，土屋 旬，富岡 尚敬，永嶌 真理子，中野 伸彦，M. Satish-Kumar
(マドスーダン・サティッシュ・クマール)，三河内 岳，芳川 雅子（柴田雅子），森下 知晃，辻森 樹

監事：永井隆哉

＜幹事会＞

会長：井上 徹，副会長：中村 美千彦，庶務幹事：安東 淳一（理事），庶務副幹事：小松 一生，会員幹事：阿部なつ江，会計幹事：富岡尚敬（理事），副会計幹事：栗林 貴弘（理事），行事幹事：瀬戸 雄介（理事），和文誌編集幹事：興野 純，英文誌編集幹事：M. Satish-Kumar（理事），渉外幹事：永嶌真理子（理事），広報幹事：齊藤 哲，Elements：東野 文子，特務幹事（細則等検討担当）：中村 美千彦（理事，副会長），地球惑星科学連合選出プログラム委員：西原 遊（正）・福土圭介（副），地惑連合連絡担当：阿部なつ江，三鉱連絡委員：安東 淳一（理事，庶務幹事），瀬戸 雄介（理事，行事幹事）

＜行事委員会＞

委員長：瀬戸 雄介（行事幹事），副委員長：越後 拓也

委員：片山 郁夫，寺崎 英紀，湯口 貴史，吉村 俊平，額 佑衣（2024名古屋大会LOC），永嶌 真理子（2025山口大会LOC），小松 一生（2026東京大会LOC）

＜岩石鉱物科学編集委員会＞

委員長：興野 純（和文誌編集幹事），副委員長：星出 隆志

委員：秋澤 紀克，阿部 なつ江，江島 輝美，遠藤 俊佑，大藤 弘明，川畑 博，久保 友明，栗谷 豪，栗林 貴弘，近藤 忠，齊藤 哲，下林 典正，鈴木 庸平，高澤 栄一，中村 美千彦，永嶌 真理子，野口 高明，坂野 靖行，東野 文子，三宅 亮，宮原 正明，門馬 綱一，込本 尚義

＜JMPS 編集委員会＞

委員長：M. Satish-Kumar（英文誌編集幹事，理事），副委員長：永井 隆哉，河上哲生，門馬綱一

委員：伴 雅雄，Kaushik Das，濱田 麻希，福山 繭子，市山 祐二，加藤 丈典，河野 元治，額 佑衣，小木曾 哲，栗林 貴弘，興野 純，三河内 岳，永嶌 真理子，大藤 弘明，奥寺 浩樹，篠田 圭司，下林 典正，隅田 祥光，角替 敏昭，宇都宮 聡，吉村 俊平，Dr. Betchaida D. Payot, Prof. Sajeev Krishnan, Dr. Sujoy K. Ghosh, Prof. Peng Peng, Prof. Luca, Bindi, Dr. Dan Dunkley

＜渉外委員会＞

委員長：永嶌真理子（渉外幹事・理事，鉱物）

委員：甕 聡子（環境），川添 貴章（高圧），奥村 聡（火山），遠藤 俊祐（地質），下岡 和也（岩石）

<広報委員会>

委員長：斉藤 哲（広報幹事）（JpGUブース展示担当），
委 員：石橋 秀巳（SNS 担当），浜田 麻希（HP 担当），下岡 和也（SNS 担当），延寿 里美（Youtube 担当，HP 担当），
安東 淳一（庶務幹事，理事）

<Elements 委員会>

委員長：東野 文子（Elements幹事），副委員長：寺崎 英紀
委 員：宇都宮 聡，片山 郁夫，興野 純，小松 一生，新名 良介，橘 省吾，中野 伸彦，
門馬 綱一（サイエンスボード）

Society News Editor：東野 文子

Executive Committee Member：井上 徹（会長）

学会役職指定委員：安東 淳一（庶務），興野 純（GKK），M. Satish-Kumar（JMPS），瀬戸 雄介（行事），
永嶋 真理子（渉外），斉藤 哲（広報）

<将来企画委員会>

委員長：中村美千彦（副会長），副委員長：大藤弘明
委 員：森下 知晃（理事），阿部 なつ江（会計幹事），鍵 裕之（理事），河上 哲生（理事），中野 伸彦（理事），
永嶋 真理子（理事）
諮問に関係する幹事：安東 淳一（庶務幹事），富岡 尚敬（会計幹事），興野 純（和文誌編集幹事），
M.Satish-Kumar（英文誌編集幹事）
オブザーバー：井上 徹（会長）

<細則等検討委員会>

委員長：中村 美千彦（特務幹事細則等検討担当）
委 員：角替 敏昭，川本 竜彦，亀井 淳志，黒澤 正紀

<新鉱物・命名・分類委員会>

委員長：門馬 綱一
委 員：松原 聡，宮脇 律郎，坂野 靖行，浜根 大輔，濱田 麻希，白勢 洋平，延寿 里美

<教育普及委員会>

委員長：林 信太郎，委員：貴治 康夫，宮嶋 敏，川手 新一，三河内 岳

<博物館委員会>

委員長：坂野 靖行，委員：宮脇 律郎，森 康，三河内 岳，上原 誠一郎，小河原 孝彦，丹羽 美春，柳澤 教雄

<日本鉱物科学会賞選考委員会>

委員長：野口 高明，副委員長：奥地 拓生
委 員：栗林 貴弘（理事），片山 郁夫（理事），中野 伸彦（理事），瀧川 晶，山口 亮，梶谷 浩，阿部 なつ江，
額瀨 佑衣，井上 徹（会長）

<渡邊萬次郎賞選考委員会>

委員長：土屋 範芳 副委員長：掛川 武
委 員：（2期目継続委員4名）：土屋 範芳（委員長），小山内 康人，黒澤 正紀（理事），宮脇 律郎
（1期目委員4名委員長指名）：掛川 武（副委員長），安東 淳一（理事），森下 知晃（理事），佐藤 努

<日本鉱物科学会論文賞選考委員会>

委員長：星出隆志 副委員長：吉田 健太
委 員：（2期目継続委員5名）：星出 隆志（委員長），永嶋 真理子（理事），水上 知行，宮原 正明，湯口 貴史
（1期目委員5名委員長指名）：吉田 健太（副委員長），江島 輝美，北野 一平，瀬戸 雄介（理事），堤 之恭

<日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会>

委員長：佐久間 博 副委員長：奥村 聡
委 員：（2期目継続委員5名）：佐久間 博（委員長），市山 祐司，川添 貴章，小松 一生，中野 伸彦
（1期目委員5名委員長指名）：奥村 聡（副委員長），越後 拓哉，齊藤 哲，境 毅，三河内 岳（理事）

<日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会>

委員長：門馬 綱一 副委員長：佐久間 博
委 員：（2期目継続委員5名）：門馬 綱一（委員長），岡本 敦，黒澤 正紀（理事），杉浦 悠紀，三宅 亮
（1期目委員5名委員長指名）：佐久間 博（副委員長，理事），秋澤 紀克（理事），寺崎 英紀，松本 恵，
横山 正

<櫻井賞選考委員会>

委員長：松原 聡
委 員：清水 正明，坂野 靖行，宮島 宏，宮脇 律郎

＜研究発表優秀賞選考委員会＞

委員長：松本 徹 副委員長：石井 貴之

委 員：(2期目継続委員5名)：松本 徹 (委員長)，西山 直毅，永治 方敬，安武 正展，濱田 麻希

(1期目委員14名委員長指名)：石井 貴之 (副委員長)，竹之内 惇志，山本 大貴，無盡 真弓，新名 良介，吉村俊平，土屋範芳，片山郁夫，白勢 洋平，高市合流，佐久間博，松本恵，秋澤紀克，遠藤 俊祐

＜2025年年会運営委員会＞

委員長：大和田 正明

委 員：永嶋 真理子，江島 圭祐，太田 岳洋，志村 俊昭，
瀬戸 雄介行事委員会委員長，越後 拓也行事委員会副委員長

＜2026年年会運営委員会＞

委員長：鍵 裕之 副委員長：橘 省吾

委 員：小松 一生，鈴木 庸平，瀧川 晶，三河内 岳，ウォリス サイモン，浜根 大輔，奥村 大河
瀬戸 雄介行事委員会委員長，越後 拓也行事委員会副委員長

10) 2024年度定時総会についての第3回定例理事会（2025年8月21日）審議事項

1. 日時：2025年9月11日(木) 9:00-10:15

場所：山口大学 吉田キャンパス 共通教育棟 1番教室

- ・現地出席者は，会場にてZOOM画面をスクリーンに投影したものとご覧いただける。
- ・現地出席以外の理事・監事・幹事を含む報告者は，説明義務があるのでZOOMで出席する。
- ・現地出席以外の総会出席予定の会員は， ZOOM Meetingで出席する。
- ・欠席予定者には，代理人による議決権の行使を委任する委任状、または書面による議決権行使の方法について通知する。

2. 社員総会の目的事項（報告事項，決議事項）について

(1) 2025年度一般社団法人第10期事業計画紹介（井上会長）

(2) 総会の報告事項，決議事項について（2024年度総会資料 決算及び事業報告）（安東庶務幹事）

目的事項

報告事項

I. 2024年度（一般社団法人第9期）事業報告

（和文誌，英文誌編集，行事，広報，庶務，Elements，会員，会長）

II. 2025年度（一般社団法人第10期）事業計画書及び収支予算などの件

III. その他

決議事項

I. 第1号議案 2024年度（一般社団法人第9期）事業報告承認，決算承認の件

資料: 2024年度定時総会資料 決算及び事業報告

1. 2025年度収支予算、2. 2024年度決算報告（“貸借対照表”“正味財産増減計算書”“財務諸表に対する注記”“附属明細書”），3. 監査報告書

授賞式

一、日本鉱物科学会賞授与 一、渡邊萬次郎賞授与 一、日本鉱物科学会論文賞授与

一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与 一、日本鉱物科学会応用鉱物科学賞授与

一、櫻井賞授与 一、JMPS学生論文賞授与

【2】 将来企画委員会報告（中村特務幹事）

第1回臨時理事会（2024年11月19日）

中村将来企画委員会委員長より，日本火山学会とセッションレベルでの共催を進める方向で協議を申し込むとの提案がなされ，審議の結果，異議なく承認された。

中村将来企画委員会委員長が提案された具体的な方針は以下の通りである。

まず鉱物科学会年会で開催しているSセッション「火成作用のダイナミクス」またはその相当セッションを，日本火山学会との共催にすることを検討を依頼する（コンピーナーの吉村氏・浜田氏には了解済み）。参加資格は，今年度の資源地質学会や宝石学会のケースと同様（共催セッションに限り日本火山学会員は入会せず発表可能，他セッションは聴講のみ可能）を原案とする。最初の共催が成功すれば，火山学会の秋季大会でも対称的なセッション共催の可能性も検討してもらおう。当初協議に際しては中村副会長に一任し，具体的な運営の検討段階に入れば大会委員会が担当する。実施時期は，可能であれば次の年会から実現したいが，火山学会では，近年このような形での共催を実施した実績がないため，合意形成に時間がかかる可能性もあり，慎重に進めることとする。

第2回定例理事会（2025年5月15日）

中村特務幹事より，火山学会の理事会で，火成作用のダイナミクスのセッションを共催することが承認されたことが報告された。さらに火山学会の秋季大会でも，対称の形で共催を進められるよう，セッションの立て方の検討がはじま

っていることも説明された。火山学会側のセッションとしては、今年の9月の学会には間に合わない可能性が高いが、来年度については東京開催の鉱物科学会と山形開催の火山学会をオンラインでつないだ上でセッションを共催することが報告された。

【3】 JpGU学会選出プログラム委員報告（西原委員長）

第1回臨時理事会（2024年11月19日）

西原 JpGU 学会選出プログラム委員より、JpGU2025 のセッションに関する報告がなされた。

- 1) 例年どおり「岩石・鉱物・資源」「鉱物の物理化学」が提案されており、鉱物科学会の共催セッションとして認める予定である。
- 2) これまで「岩石・鉱物・資源」は、旧三鉱学会に由来する3分野（鉱物科学会（岩石）・鉱物科学会（鉱物）・資源地質学会）の3人と地質学会の岩石部会の1人の合計4人のコンビーナで運営しており、そのうちの旧三鉱学会の3人が毎年輪番で代表コンビーナを務める形であった。コンビーナ間の相談により、今後は地質学会の1人を含めた4人のローテーションに変更することとなった。

【4】 学術会議・IMA小委員会報告（土屋学術会議連携会員）

第26期第4回 IMA小委員会（2025年5月23日）

- 1) 100 Geological Heritage Sites：第3回申請（糸魚川ヒスイ）は5月27日に提出済み。第4回申請やGeo-collection候補については次回以降協議。
- 2) IMA2026 南大会：セッション提案方法を共有。締切は8月31日。委員に積極的な提案を呼びかけ。
- 3) 学術フォーラム（7月12日）：土屋委員長より開催報告。土屋委員長が IMA 活動を紹介予定。環境問題や社会貢献の事例紹介を検討。
- 4) 委員会・WG 報告：
 - ・博物館委員会（CM）：M&M11（2027年）開催地募集開始。北米から候補あり。
 - ・鉱物物理委員会（CPM）：JpGU セッション支援、年内にレクチャーシリーズ開始予定。
 - ・新鉱物命名委員会（CNMNC）：承認要件を「4分の3以上」に変更。未承認命名や略称の誤用が問題視され、国際誌に注意喚起。
 - ・ナノ鉱物学 WG：来年の IMA2026 セッションに向け、7月イタリア会議で協議予定。

【5】 博物館委員会報告（坂野委員長）

第3回定例理事会（2025年5月15日）

坂野博物館委員会委員長より、2024年9月および2025年4月に開催された IMA 博物館委員会（IMA-CM）Web 会議について報告があった。

- 1) 国際会議 M&M 開催申請ガイドラインの改訂案が承認され、次回 M&M11 の開催年を2027年（EMC と重複しない年）とする方針が示された。
- 2) M&M11（2027年開催）の開催候補地として北米3地域（ミシガン、オタワ、メーン州ベルテ）が挙げられ、4月中の投票が要請された。JAMS の博物館委員の意見を集約し、オタワへの投票を実施した。
- 3) IMA-CM の人事についても投票が行われ、承認された。
- 4) 委員に対して M&M11 関連の情報共有を行ったほか、国内博物館の鉱物コレクション概要の取りまとめに向けた原案作成が進められていることが報告された。

【6】 JpGU連絡担当報告（阿部連絡担当委員）

第1回臨時理事会（2024年11月19日）

- 1) IMA の Commission of Physics of Minerals から JpGU にセッションを提案した。
- 2) 2026 年大会は AGU と連携するため、国際セッションを増やす。7割以上を英語セッションにしたい。日本語発表の場合は、スライドは英語にする。
- 3) JpGU は 10000 人を超える会員となった。セッション提案数も増えている。地球惑星科学の分野でも会員を増やすことができることが示されている。鉱物科学会でも希望を持って進めたい。

第3回定例理事会（2025年8月21日）

2026年5月に行われる JpGU 大会は、AGU との Joint Meeting として開催予定である。国際学会として、英語での発表を基本とし、日本語セッションにおいても、スライドや発表資料は英語での作成をお願いしたい。セッション提案は、例年よりもはやく9月17日から開始予定。

【7】 会員報告（阿部会員幹事）

第1回定例理事会（2024年9月13日）

新入会承認：阿部会員幹事から、学生会員6名の入会申し込みについて紹介があり、異議なく承認された。また、2024年9月13日時点での会員推移についての説明があった。

阿部会員幹事より2023年度第3回定例幹事会以降（2024年8月24日）以降の会員の動きについて以下の通り報告がなされた。退会者2名（一般会員2名）。その結果、2024年9月13日現在の会員数は846名（2024/8/24定例理事会）-2（退会）＝

844名 となった。

第1回臨時理事会（2024年11月19日）

阿部会員幹事より、2024年度第1回定例理事会(2024年9月13日)以降の会員動静について以下の通り報告がなされた。
退会者4名（シニア会員1名，一般会員1名，学生会員2名）資格停止4名（会費2年未納のため，一般会員2名，学生会員2名）この結果，2024年11月19日現在の会員数は849名(2024/9/13定例理事会) - 4(退会) - 4(資格停止) = 841名となった。
新入会承認：阿部会員幹事より，議事資料の通り，一般会員2名の入会申請が紹介された。入会希望者の川口さんは紹介者がなく，自己紹介文による申込みであったため，自己紹介文を提示した。審議の結果，2名とも異議なく入会が承認された。この結果，2024年11月19日の理事会終了時点の会員総数は843名（内訳：一般会員509名，シニア会員169名，学生会員117名，永年会員39名，名誉会員9名）で，2024年9月13日の定例理事会後より6名の減少となった。

第2回定例理事会(2025年5月15日)

阿部会員幹事より，2024年度第1回臨時理事会(2024年11月5日)以降の会員動静について以下の通り報告がなされた。
物故会員1名（永年会員1名），退会者10名（一般会員1名，学生会員7名，シニア会員2名）
この結果，2024年11月19日現在の会員数は843名(2024/11/19定例理事会)-10(退会，申請中退会者除く)=833名となった。また，2年間会費未納により会員停止予定者が9名ある旨報告された。
新入会承認：阿部会員幹事より，一般会員4名，学生会員2名（記載省略）の入会申請が紹介された。また高校生1名の学生会員入会希望があり，学会から活動内容と会員の権利および義務についての説明を行ったことが説明された。審議の結果，6名の入会および高校生1名の入会が承認された。
この結果，2025年5月15日現在の会員数総数は840名（内訳：一般会員516名，シニア会員168名，学生会員109名，永年会員38名，名誉会員9名）で，2024年11月19日の臨時理事会後より3名の減少となった。
また今回，一般会員の中でもアカデミア以外の入会希望があったこともあり，現在の会員区分の見直しや学生会員のパッケージ化を進めていく必要性が確認された。

第3回定例理事会（2025年8月21日

会員推移
839名(2025/5/15 定例理事会)-22（退会）-5（資格停止）+47(8/21 入会承認) = 859名(8/21 現在)

過去会員推移												2025 年 8 月 21 日まで											
	2007 9/20	2008 9/21	2009 9/9	2010 9/23	2011 9/8	2012 9/19	2013 9/11	2014 9/18	2015 9/25	2016 9/24	2017 8/12	2017 9/12	2018 9/3	2019 8/2	2020 8/29	2021 8/28	2022 8/24	2023 9/16	2024 8/24	2024 9/13	2024 11/19	2025 5/15	2025 8/21
一般 会員 (R)	892	886	865	846	840	702	686	672	652	628	598	602	583	565	554	541	524	503	523	511	509	516	515
シニア 会員 (RS)						139	142	148	154	171	175	175	178	175	176	172	168	168	161	170	169	168	170
学生 会員 (S)	78	76	78	68	88	103	94	87	88	83	81	83	84	90	72	88	78	99	115	121	117	108	125
永年 会員 (L)	39	36	33	37	39	37	40	41	36	34	35	35	35	36	32	32	28	39	38	39	39	38	40
名誉 会員 (H)	11	9	9	7	7	7	6	6	13	13	17	17	16	14	10	9	11	10	9	9	9	9	9
会員 合計	1020	1009	985	958	974	988	968	954	943	929	906	912	896	880	844	842	809	819	846	849	843	839	859

【8】 会長報告（井上会長）

1. 準国石の選定について

第1回臨時理事会（2024年11月19日） 準国石選定の提案について

井上会長より，準国石選定に関して以下の報告があった。
・国石選定の最終候補となった「花崗岩（花崗岩質岩およびそのpegmatite）」、「輝安鉱」，「自然金」，「水晶（日本式双晶，瑪瑙，玉髓，碧玉を含む）」を準国石として認定する方向で，検討したい。これらを準国石とすることで，本学会の知名度も上がることが期待できる。この件に対して，以下の意見がなされた。
・大藤理事：「鉱物・宝石に関する50の質問」という書籍の執筆依頼が来ている。これらの4つの鉱物を挙げると知名度があがる。
・中村副会長：「国石」を決める際に，「ひすい」と「水晶」で決選投票が行われた過程を考えると，水晶は準国石と呼んでもよいのではないか。
・安東理事：井上会長がワーキンググループを立ち上げて短時間で決定する方向でどうか。ワーキンググループを立ち上げることの議論は理事会で行う必要があるので，今回の理事会のその他の審議事項で取り上げる。

準国石選定のワーキンググループの設置（井上会長）

井上会長より、準国石選定のためのワーキンググループを設置することの提案がなされ、審議の結果、異議なく承認された。

第2回定例理事会（2025年5月15日） 準国石選定WGからの答申について

井上会長より、前回の理事会で設置が承認された「準国石選定ワーキンググループ（WG）」より、理事会宛に提出された答申（別紙参照）に関して報告があった。WGには17名が参加しており、ほぼ全員から準国石を選定することへの賛同が得られた。ただし、準国石の選定にあたっては、石英の1種に絞るか、4種とするかについて意見が分かれた。理事会では、「取り組みとして意義があるが、岩石と鉱物の違いにこだわりすぎず柔軟に対応すべきではないか」との意見や、「ワーキンググループ内でも意見が割れており、1種に絞ることは現実的ではない」との指摘があった。また、「理事会で決定したとしても会員からの反対意見が出る可能性があり、総会での決定も検討すべきではないか」との意見や、「発表のタイミングとして学会広報誌への掲載も視野に入るが、目的が十分に共有されていない可能性がある。鉱物科学の普及という趣旨に照らせば、対象が多様であることにも意味がある」といった見解も示された。これらを踏まえ、準国石は4種とすることを理事会の決定とした。

2. 事務局の整理及び移転について

第2回定例理事会（2025年5月15日）事務局（東北大学）の整理について、井上会長より、事務局の整理について以下のように提案がなされた。

現在、鉱物科学会では、東北大学理学部合同A棟420号室（0.5スパン）を事務局として借用しているが、実際の運営は小宮山印刷に外部委託しており、東北大学の部屋は事実上、資料等の保管場所となっている。このため、今後も東北大学の一室を使用し続けることの適切性を鑑み、学会事務書類の大規模な整理・処分を実施し、大型備品については東北大学への返還または廃棄を行うことが提案された。

法人として過去10年間の資料の保管は必要だが、ダンボール10箱程度であれば現在の事務局である小宮山印刷仙台営業所での保管が可能との見通しが示された。これを機に、将来的な事務局の完全移転も視野に入れた整理を行いたいとされた。なお、所在地を小宮山印刷に変更する場合でも、登記簿や銀行・税務署への登録住所の変更に伴う追加費用は発生せず、定款にも「本会は、主たる事務所を宮城県仙台市に置く」と記載されているため、定款変更も不要である。したがって、本件は理事会での決定により進めることが可能である。提案は了承され、今後この方針で進めていくこととなった。

3. 渡邊萬次郎賞の検討について

第1回臨時理事会（2024年11月19日） 渡邊萬次郎賞検討WGの設置及び委員の指名について、井上会長より、渡邊萬次郎賞の検討WGを以下の委員で構成することが提案され、審議の結果、異議なく承認された。

井上会長、中村副会長、安東庶務幹事、富岡会計幹事、渡邊萬次郎賞選考委員会委員

（渡邊萬次郎賞選考委員会委員：土屋 範芳（委員長）、掛川 武（副委員長）、小山内 康人、黒澤 正紀（理事）、宮脇 律郎、安東淳一（理事）、森下 知晃（理事）、佐藤 努）

第2回定例理事会（2025年5月15日） 渡邊萬次郎賞検討WGからの答申について、井上会長より、前回の理事会で設置が承認された「渡邊萬次郎賞検討WG」より、理事会宛に提出された答申（別紙参照）に関して報告があった。渡邊萬次郎賞検討WGからは、受賞者へのメダル等の副賞および総会出席のための交通費の有無や基金の取り扱い、さらには選考方法、対象者に関わる重要な規約の変更が提案されたが、変更点が多岐にわたりいずれも重要な変更を含むことから継続審議となった。

4. 学術会議の問題に関して

第2回定例理事会（2025年5月15日） 井上会長より、日本学術会議の法人化に関する問題について、多くの研究者が危機感を抱いている現状が共有された。4月15日には日本学術会議が法人化法案の修正を国会に求める決議を行っており、現在、他学協会と連携しながら対応を検討中であるとの報告があった。今後、署名活動等の要請があった場合には、適切に対応する方針が示された。また、類似の海外事例の紹介や、法人化問題に議論が集中し他の重要課題への影響が出ている現状などが指摘され、声明等を出す場合には他学協会との連携が重要であるとの意見があった。井上会長からは、修正案の国会での動向を注視しつつ、学会として全体の状況を見ながら慎重に対応していく方針が示された。

5. 寄付の受け入れに関するガイドラインの制定について（富岡会計幹事・井上会長）

第3回定例理事会（2025年8月21日） 以下のように、寄付の受け入れに関するガイドラインを制定した。

（目的）

1. 本ガイドラインは、一般社団法人鉱物科学会（以下「本会」）が寄付を受け入れる場合に必要な事項を定めることを目的とする。

（原則）

2. 本会は、一般社団法人鉱物科学会定款の第2章に定める事業に対する寄付に限り、これを受けることができる。
3. 寄付は原則として金銭の本会口座への振込によるものとする。

（寄付の申出）

4. 理事会は、寄付申出書が提出された場合に審査を行い、受け入れの可否を決定する。

(受領書の発行)

5. 寄付の振込等が確認された場合、本会会長は速やかに受領書を作成し、寄付者に送付するものとする。

(寄付金の扱い)

6. 受け入れた寄付金は、本会定款の定めるところにより管理する。
7. 寄付者から寄付金の使途について特定の要望があり、それが理事会で承認された場合は、会長、副会長、庶務幹事、会計幹事、事務局の間で情報を共有し、適切に執行するとともに、役員交代時には確実に引き継ぎを行うものとする。

Ⅱ. 2025 年度（一般社団法人第 10 期）事業計画書及び収支予算などの件

（1）2025年度事業計画紹介（井上会長）

以下の本会の事業を第10期も継続して行ってまいります。

編集事業：岩石鉱物科学, Journal of Mineralogical and Petrological Sciencesの発行

行事事業：2026年年会（東京大学）の開催と2025年度定時社員総会の開催，一般普及講演，各賞の表彰事業

その他本会の目的を達成するために必要な事業

この1年間，新執行部，理事，幹事により，学会事業の見直しを進め，新事務局と役員業務の円滑化を進めてまいりました．第10期では，執行部，理事，幹事によりさらなる学会事業の見直しを進め，学術活動に専念できる体制を固め，会員のみならず，社会にも貢献する体制を拡充して参りたいと思います．

（2）2025年度収支予算紹介（富岡会計幹事）

2025年8月21日に開催された第3回定例理事会にて，2025年度会計収支予算が承認されましたので紹介します．

Ⅲ. その他

一般社団法人日本鉱物科学会2025年度 会計収支予算 理事会承認	
2025年8月1日から2026年7月31日まで	
科目	2025年度予算
経常収益	
会費収入	6,657,000
一般会員	4,635,000
シニア会員	1,122,000
学生会員	500,000
賛助会員	280,000
前年度分会費	120,000
出版物収入	2,045,000
和文誌（GKK）収入	125,000
英文誌（JMPS）収入	1,920,000
バックナンバーその他	0
広告収入	0
年会収入	2,500,000
雑収入	100,000
経常収益計	11,302,000
前年度繰越金	7,826,007
経常収入合計	19,128,007
特定資産前年度繰越金	6,119,279
学会誌等刊行基金	3,478,488
渡邊萬次郎賞基金	43,289
国際学会・年会基金	1,597,502
年会ハイブリッド開催基金	1,000,000
収入合計	25,247,286
科目	2025年度予算案
経常費用	
刊行費	3,706,800
GKK電子ジャーナル費	658,000
GKK編集委託費	350,000
JMPS電子ジャーナル費	1,568,000
JMPS編集委託費	1,064,800
J-Stage-EM利用料	66,000
集会費	2,550,000
年会開催費	2,500,000
会議費	50,000
学会賞副賞	334,000
鉱物学会賞記念品	100,000
研究奨励賞記念品	40,000
応用鉱物科学賞記念品	20,000
論文賞記念品	18,000
渡邊萬次郎賞記念品	5,000
受賞者懇親会費	51,000
受賞者参加費	0
受賞者支援金	100,000
Elements購読会費	1,750,000
男女共同参画推進費	150,000
管理費	3,355,000
支払報酬料	410,000
租税公課	2,000
法人税、住民税及び事業税	100,000
事務局委託費	1,460,000
会員システム（SMOOSY）利用料	528,000
アルバイト代	30,000
旅費交通費出張費	0
水道光熱費	25,000
地代家賃	65,000
通信費電話回線料	145,000
HP管理維持費	140,000
通信費郵送料	60,000
送金・支払手数料	220,000
消耗品費	70,000
支払寄付金（地学オリンピック）	50,000
雑費	50,000
経常費用計	11,845,800
繰越金取崩	543,800
次年度繰越金合計	13,401,486
支出合計	25,247,286

決議事項

I. 第1号議案 2024年度（一般社団法人第9期）事業報告、決算承認の件

（井上会長 説明：富岡会計幹事、監査報告：永井監事）

上記に記載しました2024年度事業報告に続き、以下の決算についての説明をいたします。その後、監査報告をいたしますので、事業報告と決算について、ご審議をお願いします。

（1）2024年度（一般社団法人第9期）決算について（説明：富岡会計幹事）

1. 貸借対照表

貸借対照表

令和 7年 7月31日現在

一般社団法人日本鉱物科学会

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	6,470,566	5,602,133	868,433
前払費用	1,663,441	1,573,160	90,281
流動資産合計	8,134,007	7,175,293	958,714
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
学会賞等刊行基金	3,478,488	3,477,132	1,356
学会賞・奨励賞・論文賞基金	0	63,114	△ 63,114
渡邊萬次郎賞基金	43,289	43,269	20
国際学会・年会基金	1,597,502	1,647,624	△ 50,122
年会ハイライト開催基金	1,000,000	0	1,000,000
特定資産合計	6,119,279	5,231,139	888,140
固定資産合計	6,119,279	5,231,139	888,140
資産合計	14,253,286	12,406,432	1,846,854
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	232,500	235,500	△ 3,000
預り金	3,500	0	3,500
未払法人税等	72,000	72,000	0
流動負債合計	308,000	307,500	500
負債合計	308,000	307,500	500
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
（うち特定資産への充当額）	13,945,286	12,098,932	1,846,354
	(6,119,279)	(5,231,139)	(888,140)
正味財産合計	13,945,286	12,098,932	1,846,354
負債及び正味財産合計	14,253,286	12,406,432	1,846,854

2. 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書

令和 6年 8月 1日から令和 7年 7月31日まで

一般社団法人日本鉱物科学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
会費収入	6,291,500	6,581,256	△ 289,756
一般会員	4,396,500	4,559,500	△ 163,000
学生会員	436,000	340,000	96,000
シニア会員	1,112,000	1,086,500	25,500
賛助会員	260,000	277,256	△ 17,256
前年度分会費	87,000	318,000	△ 231,000
出版物収入	2,419,000	3,865,017	△ 1,446,017
和文誌(GKK)収入	179,200	55,000	124,200
英文誌(JMPS)収入	2,239,800	3,810,017	△ 1,570,217
年会収入	3,910,137	2,873,000	1,237,137
参加費	2,224,000	1,693,500	530,500
懇親会費	990,000	744,000	246,000
展示料収入	430,000	170,000	260,000
受取助成金	266,137	0	266,137
その他収入	0	65,500	△ 65,500
受取寄附金	1,030,000	29,103	1,000,897
雑収入	101,634	137,127	△ 35,493
著作権料収入	96,346	122,813	△ 26,467
受取利息	5,288	90	5,198
編集作業収入	0	14,224	△ 14,224
経常収益計	13,752,271	13,285,503	466,768
(2) 経常費用			
刊行費	3,366,660	4,189,570	△ 822,910
GKK電子ジャーナル費	528,880	571,780	△ 42,900
GKK編集委託費	345,510	384,010	△ 38,500
JMPS電子ジャーナル費	1,367,190	1,863,390	△ 596,200
JMPS編集委託費	1,059,080	1,204,390	△ 145,310
J-Stage-EM利用料	66,000	66,000	0
集会費	3,335,247	2,416,590	918,657
年会開催費	3,335,247	2,406,590	928,657
会議費	0	10,000	△ 10,000
学会賞副賞	199,279	323,365	△ 124,086
鉱物学会賞記念品費	100,880	100,880	0
研究奨励賞記念品	40,770	40,000	770
応用鉱物科学賞記念品	0	21,650	△ 21,650
論文賞記念品	9,179	0	9,179
受賞者懇親会費	36,000	48,000	△ 12,000
受賞者参加費	7,500	8,050	△ 550
渡邊萬次郎賞記念品	4,950	4,785	165
発表賞支援金	0	100,000	△ 100,000
Elements購読会費	1,637,640	1,742,428	△ 104,788
管理費	3,295,091	3,522,884	△ 227,793
支払報酬料	478,881	385,550	93,331
租税公課	1,050	0	1,050
事務局委託費	1,413,445	1,699,280	△ 285,835
会員システム利用料	528,000	528,000	0
臨時雇賃金	24,000	24,000	0
水道光熱費	22,824	24,792	△ 1,968
地代家賃	63,009	63,009	0
通信運搬費	308,877	301,529	7,348
支払手数料	225,148	220,155	4,993
消耗品費	77,187	74,614	2,573
ホームページ管理維持費	101,640	111,100	△ 9,460
支払寄付金	50,880	50,880	0
雑費	150	39,975	△ 39,825
経常費用計	11,833,917	12,194,837	△ 360,920
評価損益等調整前当期経常増減額	1,918,354	1,090,666	827,688
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,918,354	1,090,666	827,688
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	1,918,354	1,090,666	827,688
法人税、住民税及び事業税	72,000	72,000	0
当期一般正味財産増減額	1,846,354	1,018,666	827,688
一般正味財産期首残高	12,098,932	11,080,266	1,018,666
一般正味財産期末残高	13,945,286	12,098,932	1,846,354
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	13,945,286	12,098,932	1,846,354

3. 財務諸表に対する注記

財務諸表に対する注記

一般社団法人日本植物科学会

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
学会賞等刊行基金	3,477,132	1,356	0	3,478,488
学会賞・奨励賞・論文賞基金	63,114	14	63,128	0
渡邊萬次郎賞基金	43,289	20	0	43,289
国際学会・年会基金	1,647,624	758	50,880	1,597,502
年会ハイフット開催基金	0	1,000,000	0	1,000,000
小 計	5,231,139	1,002,148	114,008	6,119,279
合 計	5,231,139	1,002,148	114,008	6,119,279

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
学会賞等刊行基金	3,478,488	(0)	(3,478,488)	(0)
渡邊萬次郎賞基金	43,289	(0)	(43,289)	(0)
国際学会・年会基金	1,597,502	(0)	(1,597,502)	(0)
年会ハイフット開催基金	1,000,000	(0)	(1,000,000)	(0)
小 計	6,119,279	(0)	(6,119,279)	(0)
合 計	6,119,279	(0)	(6,119,279)	(0)

4. 附属明細書

附属明細書

一般社団法人日本植物科学会

1. 特定資産の明細

特定資産については財務諸表に対する注記に記載しているため、附属明細書での記載を省略している。

2. 引当金の明細

該当なし。

(2) 監査報告（永井監事）

次頁の監査報告書の通り。

監査報告書

令和 7 年（2025 年）8 月 21 日

一般社団法人日本鉱物科学会

代表理事（会長） 井上 徹 殿

代表理事（副会長）中村 美千彦 殿

一般社団法人日本鉱物科学会

監事 永井 隆哉



私監事は、2024 年(令和 6 年)8 月 1 日から 2025 年(令和 7 年)7 月 31 日までの一般社団法人日本鉱物科学会第 9 期事業年度における会計及び業務の監査を行いました。

その結果につき次の通り報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、オンラインで実施することについて同意し、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその付属明細書の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の方向を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 計算書類及び付属明細書は、一般社団法人日本鉱物科学会の財政及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます、
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い一般社団法人日本鉱物科学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務の執行に関し、不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

各賞授賞式（井上会長）

【1】2024年度日本鉱物科学会賞表彰

第31回受賞者：富岡 尚敬 会員（海洋研究開発機構高知コア研究所）
業績題目「高温高圧下における惑星物質の相転移と変形の挙動解明」

第32回受賞者：宇都宮 聡 会員（九州大学大学院理学研究院化学部門）
業績題目「福島第一原発事故で放出された高濃度放射性セシウム含有微粒子に関する先導的研究」

【2】渡邊萬次郎賞表彰

第41回受賞者：周藤 賢治 会員

【3】2024年度日本鉱物科学会論文賞

第28回受賞論文

Title: Water contents and pressures of melts in unerupted felsic magma constrained by SEM-EDS analysis of homogenized melt inclusions in zircon. 2024 年 119 巻 1 号 論文 ID: 230904

Authors: Taichi KAWASHIMA, Kazuya SHIMOOKA, Toko FUKUI, Satoshi SAITO

受賞者：川島 泰地 会員，下岡 和也 会員，福井 堂子 会員，齊藤 哲 会員

第29回受賞論文

Title: Carbon isotopic composition of graphite in metamorphic rocks from Lützow-Holm Complex, East Antarctica: Implications for carbon geodynamic cycle in continental crust. 2023 年 118 巻 ANTARCTICA 号 論文 ID: 230401

Authors: M. SATISH-KUMAR

【4】2024年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

第37回受賞者：大柳 良介 会員（国士舘大学理工学部理工学科）
研究対象：沈み込み帯や海洋底における岩石—水相互作用プロセスの解読

第38回受賞者：則竹 史哉 会員（山梨大学大学院総合研究部）
研究対象：原子モデルに基づくけい酸塩溶融体の粘性支配因子の解明

【5】2024年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞表彰

第17回受賞者：瀬戸 雄介 会員（大阪公立大学大学院理学研究科）
業績題目：鉱物学・結晶学を基盤としたソフトウェア開発と鉱物科学への貢献

【6】櫻井賞表彰

第47回受賞者：田中 崇裕 会員（日鉄鉱コンサルタント株式会社）
対象鉱物：三千年鉱

【7】2024年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

第18回受賞論文：Water contents and pressures of melts in unerupted felsic magma constrained by SEM-EDS analysis of homogenized melt inclusions in zircon. 2024 年 119 巻 1 号 論文ID: 230904

Authors: Taichi KAWASHIMA, Kazuya SHIMOOKA, Toko FUKUI, Satoshi SAITO

受賞者：川島 泰地 会員（投稿時：愛媛大学・M1）